

株式会社 友電舎

機能性を左右する

精密電子・電気部品の表面処理で

「不可能への挑戦」を行う

海外発注可 納期相談 企画力自信有 コスト相談 オンリーワン技術 メイドインジャパン 試作可小ロット 量産対応



オンリーワン設備と異物・コンタミ対応も取り入れたオリジナル表面処理ライン



常に品質向上に取り組む製品検査体制

「心」をお届けする為に
より早く、より高い目標を

避雷針先端の金めっき専門業者として、昭和30年に創業した友電舎。長きにわたるめっき技術への道はここから始まった。昭和47年には機能めっき分野に進出。その2年後には、デジタル時計等の電子部品の特殊めっき処理法を開発した。その後ポタン電池、微細管内やプリント基板等、さまざまな精密電子部品、電気部品へ機能性を左右するめっきの加工技術を次々と開発、生産してきた。これをコア技術として、プレス、切削、ダイカスト、精密洗浄、化学研磨、熱処理、塗装、アッセンブルに至るまで幅広く製品づくりのサポート体制を取れるまでに発展。現在は、不可能への挑戦に応えるべく、グループ会社を次々に設立する等、事業展開にも積極的だ。

「めっき技術」は、さまざまな素材に対応が必要。やってみなければわからない思考錯誤の連続。その分、顧客「へ」の対応が必要とされる。そのため、同社では社内設備を100%自社設計で行い、製品

仕様、生産工程別に、それぞれオリジナル製造ラインを構築。各ニーズに応えることを可能にしている。

超精密、微細部品を中心にクリーン工場の生産ラインも兼ね備え、24時間365日の稼働体制も整っている。また高品質を保つための品質検査には、最先端の分析・解析機器を導入。これらの実践こそ、同社の基本理念である、徹底した顧客満足のため「サービスマン」心をお届けしたい。を体現していると言えるのではないだろうか。

経営資源は挑戦へのスピリット
訓練をし続ける

継続への力が、資源となる

マイクロ電池部品では国内シェア60%、水晶振動子関連では世界シェア30%を誇る同社。特殊な技術を施した製品を、常に一定の水準で出荷できることには何か秘訣があるのだろうか？

工場内にその答えのひとつを見出すことができる。自動化された生産ラインとは別に手作業中心で生産を行っているその箇所は「セル生産方式」と呼ばれ、単独で作業工程をスピーディーに行えるよう、屋台のように機器を設置。この中心で人が丁寧のように作業を行うため、効率よく少量試作から量産までを可能にしている。手作業でありながら、高品質・低価格で生産を実現できるのも、これらの工夫にあるようだ。

こうした生産ラインの人材育成にも注力している同社。「とにかく訓練し続けることです。この継続が力となり、資源となる。経営の中で最も大切なのは、挑戦へのスピリットを育む事」と語る、創業者の秋山会長。この精神の息吹は、次世代を担う現社長へと確実に受け継がれている。

Company Profile

株式会社友電舎

ISO 14001 大阪22
ISO 9001

住所 〒554-0052
大阪市此花区常吉2-4-8
TEL 06-6465-1663
FAX 06-6468-5600
設立 昭和48年12月
資本金 3,800万円
従業員 150名
代表取締役社長 秋山 正洋

■主な事業内容

精密電子部品、電気部品への機能表面処理全般、プレス、熱処理、表面処理製品の製造・販売

■主な取引先

大手家電メーカー、電子機器メーカー等

<http://www.ydn.co.jp>

他社には負けない

当社のものづくり
セールスポイント

表面処理技術のみにとらわれず
新たな産業分野の創出にも挑みます!

代表取締役社長 秋山 正洋 さん

長年培ってきた表面処理技術で、難素材、特殊材料へのめっきはぜひご相談ください。また、表面処理技術だけにとらわれず、新たな産業、事業の創出も含め「不可能への挑戦」は、産官学連携でさらに研究開発を進めてまいります。